



## 2018 WBTF ANNUAL GENERAL MEETING

President	Sandi Wiemers
Vice President	Jean Patrick Rousset
Secretary	Jeff Johnson
Treasurer	Paul Rutten
Sport Administrator	Moto Tsuchiya
Australia	Ainslie Hunt
Canada	Joanne Moser
Czech Republic	Michaela Holmanova
England	Nicky O'Neill
France	Jean Patrick Rousset
Ireland	Bernadette Doyne
Italy	Giovanni Gritti
Japan	Noriko Sugiura
Netherlands	Martin Stevens
Norway	Monica Molvaer
Russia	Andrey Kokoulin
Scotland	Fiona Howat
Sweden	Amelie Nilsson
Switzerland	Alessia Dolci
USA	Karen Cammer

9:00 am、サンディ会長が開会を宣言した。

投票権を有する役員は12名、2名はオンラインで出席。

**動議 1:** 1項目を追加した上で、議題を承認する。 – スティ・トゥ・プレイポリシーについて

発議：オランダ

セカンド：USA

賛成：全会一致

**動議 2:** 2017ウインター及びサマー会議の議事録朗読を省略

発議：USA

セカンド：Switzerland

賛成：全会一致

ETCが参席

ゲストを招き、スポーツ化に向けた説明を受ける。

Karl Olson, ICU (国際チアリーディング連合)

Alfredo La Mont, UGAISF Sports Council

## スポーツ承認へのステップについて

**Alfredo La Mont:** スポーツ承認を目指すにはスイスのロザンヌにあるGAISFに登録する必要があり、GAISFと名称を最近変更した。現在GAISFには約100種目のスポーツ団体が加盟している。また加盟を目指してさらに100種目が申請中。スポーツ化申請は単純なものではなく、まず申請を行い提示された条件をクリアする必要がある。その後政治的なプロセスが開始される事となる。

ICUが加盟するには15年を有し、2016年にやっとIOCの認可を受けた。2014年にGAISFにISF（国際スポーツ組織）として加盟した。それまでには長年に渡って申請活動やロビー活動を行い、ICUがスポーツ競技団体としての条件を満たしている事を説得してきた。このプロセスは長い期間と膨大な資金が必要となる。特にFIG（国際体操連盟）からの圧力に対抗する為に多くの労力を費やした。最終的にはICUとFIGが直接交渉し、両者理解の下にGAISFへの加盟を果たした。

**Karl Olson:** 昨晚WBTFエグゼクティブにも説明した。WBTFの歴史はICUよりずっと長い。我々の組織は1960年代に初めて競技としてのチアリーディングが開始された。2000年代前半、チアリーディング世界大会が開催され始めた。これはどちらかと言うと複数のクラブが集まって行ったイベントの様な物。2004年13カ国により初めて会議が開催され、ICUが設立された。我々がGAISFに申請書を提出した段階では、加盟国は55カ国だった。ICUでは暫定会員のシステムを導入しており、WBTFの方がこのシステム導入に関しては我々より歴史が長く、確立された民主的な制度を既に導入している。2009年に初めてGAISFに加盟申請を提出した。その際3つの点について指摘を受けた。WADAの承認が必要であった事。この承認を受けるには最低でも5回の世界選手権大会を開催していなければならない。また各国における加盟団体が自国でスポーツ承認を受けているかが重要。2010年のGAISF総会で加盟申請のプレゼンテーションを行う直前、FIGより「ICUの加盟申請には反対票を投じる」とのメールが届いた。その理由は、チア種目は、基本的には体操競技に帰属するとの理由からだった。

これにより、3年間にわたる交渉が始まった。その交渉の中で一つ興味を引く条件は、FIGに所属する加盟国連盟で既にチア種目を行っている連盟は、その連盟をICU加盟連盟として受け入れる事、という内容だった。実際これに該当したのはオーストラリアだけだった。

申請に関するチャレンジは、GAISFに加盟しているスポーツ連盟から支持を得るという事。なぜなら一旦GAISFにスポーツ種目が加盟すれば、全てのスポーツ競技会に出場が可能となるため。

2013年、スポーツ承認への第2ラウンドが始まった。この段階ではWDSFが我々の加盟申請に対し反対した。この連盟とも交渉を始めた。2016年にやっと交渉が成立し、同時にGAISF加盟を果たす事ができた。

**DW :** GAISF加盟済み連盟からの支持が必ず必要なのか。

**KO :** 申請すると、申請に対する反対意見が加盟承認の決定を引き延ばす事となる。絶対多数による支持が必要な訳ではなく、ある特定の反対意見に対しては直接的に対応する必要が出て来る。

**PR :** WADAへの対応は必須条件なのか。

**KO** : その通り。**WADA**からの承認は必須条件。アンチドーピング規定が必ず必要であり、その内容は**WADA**に承認されなければならない。既にドーピングテストを実施した経験があれば有利に働く。もし世界選手権大会か大陸別大会で、まだドーピング検査を行っていないのであれば、至急開始する事を奨励する。検査実施は高額だが、行う価値は十分ある。

**JPR** : どの組織として申請を出すのか、**WBTF**か又は**IBTF**としてか。申請は大至急取り掛かる必要があるが、今回の会議で**IBTF**の定款を承認し、同様に**WFNBTA**は3月の総会で定款を承認する事となる。もし我々が先だって**GAISF**申請を開始するなら、事前に**NTBA**の同意を得る必要がある。そうでないと今までの組織統一への努力が、一気に爆発・破壊されてしまい、今後**WFNBTA**との関係は非常に悪くなる。2019年の大会には、メジャレッツ部門の開催も予定されており（**WFNBTA**は既にメジャレッツ大会を開催している為）大きな影響が出る事となる。フランス代表として私が懸念するのは、既に**WBTF**と**WFNBTA**の統合に対し多大な投資を行ってきた事。しかし現状を見ると、**IBTF**と言う組織において、**WBTF**はパートナーである**WFNBTA**を置き去りにして前に進もうとしているように見受けられる。もし**WBTF**がこのまま独自で**GAISF**申請を行うのであれば、**WFNBTA**に対しても何らかの解決法を準備しておく必要がある。

**SW** : 100%賛成する。まずは直接**WFNBTA**の会長に電話をする。**WBTF**が先行してまず申請を行い、**WFNBTA**も準備ができ次第我々の申請に合流するよう、事前に同意書を交わしておけばきっと賛成してくれるはず。

**KO** : **ISF**は状況において名称を変更する事が出来る（以前**IDSF**だったのが後に**WDSF**となった等）。名称変更などはさほどの問題ではなく、まずは誰よりも先に申請に向けての楔を打ち込む事が重要。

**SW** : なぜ先に申請を提出する事がそんなに重要なのか。

**ALM** : 誰よりも早く申請する事により、スポーツ種目としての認知が早く開始され、**GAISF**内での手続きがより速やかに開始されるという事。

**MS** : 通常承認まではどの程度の期間を要するのか。

**ALM** : 種目によって異なり、一言では応えられない質問。**ICU**の加盟は7年を要した。

**KO** : **GAISF**の新たな方法は、査定委員会を設立した事。申請承認の是非は、今後この査定委員会が行い、この委員会を構成する3名のメンバーが決定する事となる。

**ALM** : この詳細に関しては**GAISF**の公式ウェブサイトから確認できる。

**SW** : 申請において政治的な圧力は大変重要な要素となる。この為、今回**ALM**をアドバイザーとして招聘すべく、ボードに提案する。

**ALM** : 手がけてきたスポーツ種目は、ベースボールやソフトボール種目（1980年代）。当時両種目はそれぞれ、アイデンティティの確立で問題を持っていた。ソフトボール種目はベースボール種目とは全く別種目としての位置付けを求めていた。現在ではパクールやスケートボーディングのコンサルティングにも関わっている。

## 報告事項

### IBTF報告

SW：12月に配信した報告書に関して何か質問は？

JM：年齢部門に関する確認。ジュニア女子は13歳からと議事録では記載されていた。

Jeff：議事録を確認した所、男子ジュニアは12歳になっているのに対し、女子ジュニアは13歳となっていた。WFNBTAの取締役に記載が正確なのか、修正が必要なのかを確認する。

SW：加盟国数の合計を40カ国に近づけるため、IBTFではメジャレッツ種目の導入を決めた。この為2019年グランプリ大会にはメジャレッツ種目が加えられる事となった。これによってWFNBTAに加盟するメジャレッツを主体として活動している国や、他の国からの加盟を促す。

SW：2019GP及びICにおいてルールが変更された。エリートレベルのIC種目がGPのみでの実施となった事。これにより両大会を含む開催期間を短縮する事ができる。2021年にはこれら二つの大会が一つとなり、IBTF世界選手権大会となる。IBTFフリースタイル世界選手権大会は2022年からの開催となるが、WFNBTAからの出場者数の増加には時間がかかるだろう。

WFNBTAとの交渉での最大の難関は、先方は3年ごとに独自の国際大会実施を強く希望した事。また彼ら独自で行う大会を世界選手権大会と呼びたい、と言う事。この交渉には11月の会議以降数週間に渡って行われたが、最終的に同意が得られた。但し、WBTFとしてこの3年目の大会をどのようなものに位置付けたいのかを決定する必要がある。

KC：今後どうなるのか。IBTFは法人化し、定款は批准された。加盟国協会にとってどのような意味があるのか。加盟国はWBTFの規程を遵守するのか、それともIBTFの規程なので。いつ最終的に一つの組織となれるのか。

SW：もちろん将来の目標は一つの組織となる事。

KC：GAISFへの申請はWBTFとして行うのか、それともIBTFとしてなのか。

SW：まずはWBTFとして申請し、同時に同意書をWFNBTAと交わす。

KC：もしWFNBTAが同意しなければどうなるのか。

SW：同意しない場合は申請を待つ必要がある。WFNBTAと足並みをそろえないと、問題が生じる。IBTFとして今申請するのは困難。IBTFの非営利団体承認には時間を要する。また必要とされる回数のIBTF世界選手権大会を開催するには時間がかかる。

IBTFの定款に関する質疑応答があった。

KC：16ページのアセスメント料とは何か。

**SW** : 各国における**WBTF**と**NBTA**の状況はどうか。

**CZE** : 昨年まではバトントワーリングにおける唯一の組織だったが昨年他の組織が設立された。この組織はメジャレッツを取り込んでいる。

**MM** : 大会を共同開催して、協力体制にある。**NBTA**の代表者が交代したので、今後継続して友好関係を維持するよう努力する必要がある。両者とも前向きだが、隔たりも大きい。

**SW** : ノルウェーの問題は、**NBTA**ノルウェーは現在音楽連盟（6,000名の会員数）に加盟しており、財政的には大変潤っている。従って、彼らはスポーツ化を望んでいない。スポーツ化すると今までの助成金を失う事となる。**WBTF**ノルウェーはスポーツ種目として認定されており、施設確保等の恩恵を受けている。**NBTA**ノルウェーのルールは、ジムナスティック動作を禁止している為、**WBTF**ノルウェーに選手が移り始めている。

**SWE** : メジャレッツ関連の組織は存在するが、それらは音楽連盟に加盟している。特に彼らとの問題はない。

**ITA** : **WBTF**イタリアは**NBTA**に対し、統合を促している。しかし**NBTA**イタリアがそれを望んでいるのかはわからない。

**SWI** : **NBTA**とは同意書を交わしているが、現在**NBTA**の選手は国内には存在しない。現在メジャレッツを取り込もうとしているが、競技への参加は望んでいない。スイスにはメジャレッツが多数存在するが、競技には参加しない。

**SCO** : 問題無し。

**NET** : 対話できる状態ではない。オランダ内のメジャレッツ団体とは多少の協力を行っている。審査員派遣等を行っている。将来全国大会を共催で行う予定。メジャレッツ団体は音楽連盟に加盟しており、原則としては**NBTA**の統治下となるが、彼らは**NBTA**参加での活動は望んでいないように思える。我々の問題は会員数が非常に少ない事。

**ENG** : 2月に初めての**NBTA**との共催の大会を実施予定。お互いによく知っており、選手も両組織の活動に関わっている。敵対関係ではない。またメジャレッツ組織との交流もある。彼らは国際大会には参加していない。2019年の大会を楽しみにしている。

**CAN** : 国内においてはメジャレッツの団体は存在しないと思う。**CNBTA**とは直接話は出来ていない。**CNBTA**が実質的に活動しているのは1つの州のみ。我々の組織の方が大きく、財政的にも安定している。

**ENG & NET** : 多くの**NBTA**協会は、今後競技が続けられないでは、と心配している。

**SW** : フリースタイル種目に関しては、コンパルソリーやショートプログラムがある為、**WFNBTA**も参加しづらいとの事。従って今、ジュニア部門に関してはコンパルソリーのエレメントをショートプログラムの必須エレメントに入れ替えるなどの検討し始めている。

**JAP** : 現在日体協への加盟を目指している。**NPO**のバトン組織が日本には存在するが、**NBTA**とは関係が無い。翌月会議を行う予定。前回会ったのは2年前。今回は何らかの同意書をかかわりたいと願っている。日体協への加盟には彼らの同意書が必要となる。また現在、アジア近隣諸国へのバトン普及に力を入れている。



**USA** : 現状は他国と異なっている。60年の歴史を持つ**USTA**は、本来**NBTA**から分かれて設立された組織。**USTA**は非営利団体だが、**NBTA**は会社法人。従って選手、コーチ、審査員レベルにおいてはさほどの問題を感じておらず、選手も双方のイベントに深く関わっている。会社法人と統合する事は出来ない。また規模では我々の方が小さい。

**FRA** : 運営面及び規程面に関しては統合したが、技術面に関してはあえてそれぞれ独立した状態 (**WBTF**はフリースタイル、**NBTA**はソロと2バトン種目)。現在指導者育成システムを統一しようとしている(コーチレベル1)。アイルランドで開催されるヨーロッパカップには**WBTF**と**NBTA**から代表選手を選出する。またバトン種目だけではなく、他のスポーツ種目とも共有できる一貫したスポーツ指導者認定システムの導入を検討している。このシステムで認定された指導者は単なるバトンコーチではなく、スポーツ全般の指導者として認定される事になる。

**RUS** : 我々は当初バトンとメジャレッツの両種目をスポーツとして認証させようと、スポーツ省に申請した。しかしメジャレッツに関しては他の**ISF**が存在しており、1種目のみとなった。我々の組織も本来メジャレッツが基本となっており、現在**35**団体がメジャレッツ、**6**団体がバトントワーリングを行っている。他団体を我々の大会に招いたが、拒否された。彼らは現在**WMF**と活動を共にしている。

**CZE** : 我々もロシアと同様である。複数のメジャレッツ連盟が存在し、その中の1組織は**WMF**の加盟組織として活動しており、現在協力関係は存在しない。

休会

マーティン・スティーブンスからの議案について

**NET** : (2018年ヨーロッパカップについて) コンチネンタルコミッションが存在するにもかかわらず、この組織は十分に活用されていない。キャロライン、**JMR**、ニッキーから提案された実施計画には問題はなかった。タイムスケジュールにも十分配慮して計画を立てた。予選や準決勝でのスコアはフラッシュせず、決勝のみフラッシュし、競技時間の短縮を行う事で合意していた。にもかかわらずサンディとパオラから横やりが入った。なぜコンチネンタルコミッションが決定した通りに実施させてくれないのか。

**SW** : パオラが心配していたのは、5日間開催で大会を実施した場合、出場選手のコストは膨大になる事。そこで選手が全日程滞在しなくても、参加競技が実施される日のみ参加し、全日程滞在しなくても良くなれば、コストが避けられると考えた。

**NET** : マネジングコミッティが横槍を入れた。なぜヨーロッパコミッションに運営を任せておかないのか。

**SW** : 10月にヨーロッパの数カ国から大会運営はどこまで話しが進んでいるのか、との問い合わせを受けた。大会情報が必要なにもかかわらず、情報が一切発信されていなかった。

**SW** : マネジメントコミッティが大会運営に関わったのは、情報が一切掲示されていなかったから。情報が配信されないと、各国も選手団派遣の準備が出来ない状態だった。

**SW** : 今後の予定については、全てニッキーに確認する事。

**NET** : **ETC**とテクニカルコミッティについて。**ETC**で全て事が運び、各国のテクニカルアドバイザーが十分に関われない。テクニカル関連の作業工程をスピードアップさせる為の**ETC**

には賛成する。しかしETCは他者を置き去りにしているように感じる。

SW：100%賛成する。今回の会議で、ETCの再構成に関する提案が行われる予定。

NET：ジュニア選手の出場者数決定に関する手順について。この件に関してはサマー会議で一旦採決され、その後さらにメールで採決された。採決ばかりするが、実際の審議は一切行えていない。

USA：昨年のIC大会中、日曜日の朝に開催された緊急会議は良い環境では無かった。環境は悪かったが、ある程度の審議は行えたと思う。USAから提出された提案が否決されたのも、やはりあの場で審議が出来たから。勿論決定までの手順は理想的では無かったと思う。

SW：今後は大会中、緊急会議を開催するつもりはない。

NET：VIP用のIDについて、新しいルールでクロアチアでのICを行ったが、問題はなかったのか。

SW：特に問題はなかった。但し、事務的手順が多く時間がかかった。

**動議1:**以下を追加の上、議題を承認する。

- スティ・トゥ・プレイ 規程の再考

発議：NET

セカンド：USA

賛成：満場一致

**動議2:** 2017年ウィンター及びサマー会議の議事録朗読を省く。

発議：USA

セカンド：SWI

賛成：満場一致

## 会計報告

PR：2017年度は予算内にて運営できた。

## 監査委員会報告

JMoser：会計資料はサンディとポールから提出された。銀行口座関連書類、請求書及び領収書の全てを確認した。委員会はこの総会前に、全ての書類を確認した。監査対象書類は大変明瞭であった。

銀行手数料を問題点として指摘する。特に銀行送金時の手数料はWBTFが負担しており、問題である。

提案としては、\$500以下の支払に関してはPayPal又はクレジットカード決算をしてもらい、加盟各国に協力を要請する。

また大会ごとに決算書を分けて作成すると、より理解しやすくなるとの提案を行った。

JAP：監査報告を感謝する。今後収支決算報告書は総会前に事前配布し、内容を確認した上でウィンター会議に参加できるよう、提案する。勿論監査委員会は総会直前に行われるので、決算案だけでもよい。

**動議3:**監査委員会の報告を承認する。

発議：Canada

セカンド：USA

賛成：満場一致

**動議：**会計報告の承認

発議：USA

セカンド：Scotland

賛成：Unanimous

### 2018年ヨーロッパアンカップ報告（割愛）

European Commission will notify countries about their assigned practice days and items.

European Commission will discuss at their meeting when the Opening Ceremony will be held. That decision will also take the practice schedule into consideration.

FRA: The French selection isn't held until end of May. If the hotel deadline is the end of March... what can we do?

SW: Normally, the recommendation is that each country should book the number they think they will need, and then cancel what they don't need.

SW: What is the cancellation window? Cancellation terms vary by property. Most have non-refundable deposits by March 2018.

FRA: We think this will be a significant problem for 2018, as France bookings for ECup are done by club and not by country.

NOR: Same problem as France. May 15 would be a more acceptable deposit deadline.

SWE: Also

SW: Will ask Bernadette to discuss with the hotels

NET: The hotel prices quoted on the EuroTwirl website are 25% higher than what you can find on a site like [booking.com](http://booking.com).

SW: Speaking on behalf of USTA and the 2018 World Champ... the negotiation with the hotels was designed to accomplish two things: good rates for the guests and also financial support from the tourism board (or equivalent) to offsetting some of the costs for the competition.

IRE: Hotels in the Dublin area are expensive and are not being marked up by 25%. I understand everyone's feelings with the situation as she has been on the other side also when travelling to competitions.

IRE: Will see if it is possible to either drop the non-refundable deposit or move the date to be later.

SW: list of countries that have already booked?

IRE: Eng, Switzerland, some of Net, Czech Republic

昼食休憩

コンチネンタルコミッション会議



## **2018年世界選手権大会 情報**

SW：本部ホテルのエンバシースウィートからのシャトルバスを申込みたい代表团はあるか？シャトル便は開会式及び大会開催中のみとする。シャトル便は大会前後の1回ずつ。空港送迎は行わない。また練習会場の送迎も行わない。パンパシフィック大会時の経験によると、1日あたり一人 \$ 12~15ドル。価格を確定するには利用者数の確定をする必要がある。

NOR：タクシーや大型車の予約は可能か。

SW：複数の会社が存在する。

JAP：利用できる日にもよる。サンディが何カ国ぐらい検討するか確認した。

CAN：練習会場は既にウェブに掲載されているか。いつから予約が可能か。

SW：大会中の昼食予約も行う。USTAとしては国ごとに予約をまとめて提出してもらいたい。選手、コーチ、役員、観客を含む。

SW：エンバシースウィートでは、夕食のビュッフェも用意できる。一食約 \$ 25。メニューは未定だが、内容は豊富。利点は大会終了後速やかに食事ができる事。オランダは観光客が多くレストランは絶えず満席状態。注文はホテルのコンベンション担当者に行く。

SW：代表团でパーティを開催する国は、ホテルのコンベンションサービスと直接交渉する事。夏期は、会議や結婚式でホテルはかなり込み合う。早めに交渉する事。

ITA：夕食のビュッフェは大会中のみか。

SW：最低20名の利用者がいれば、いつでもビュッフェは可能。営業時間は大会終了後すぐから2時間以内。

### **メジャレットタスクフォース**

サンディ・ウィマーからの報告

木曜日の夜に会議を行った。FRA、ENG、RUSが参加。

どのようにしてWBTFにメジャレット部門を取り入れるのかについて審議した。ENGに、現在どのようなメジャレット協会が存在し、どのような種目を実施しているのかを調査してもらう事となった。これらの情報に基づき、どのような種目を実施できるかを検討する。今年の5月モスクワからの開催を提案。RUSでは既に大会開催が予定されている。

RUS：昨年は5カ国が大会に出場した、CZE, KYR, KAZ, RUS。今年の大会は5月12~13日。エキシビジョンホールで大会を行う。1会場ではメジャレッツ、もう片方はチアの大会。

SW：ヨーロッパには4~5連盟存在する。注目する団体は、International Federation Majorette Sport。この団体はWBTFとの協力関係を望んでいる。

メジャレッツ連盟と協力する事に我々の組織が成長できる可能性がある。同じ手具を使うため共通点があるが、技術レベルが我々より低い。彼らは自身の種目があり、その中で活躍する事ができる。

NOR：メジャレッツ連盟にとって我々と協力するメリットは何か。大会に出場したいのか。

SW：彼らはより高い技術レベル、組織力、運営能力を求めている。多くの選手は運営能力の低い組織に属している。また多くはWMFに取り込まれたくない。従って我々はメジャレッツ団が参加しやすい開かれた環境を作る必要がある。

### 継続審議

各国のコンタクト先を提出する事。

### 今後のカレンダー確認

2019 ヨーロッパ選手権大会の開催地が未定。主催を希望する国は2月14日までに立候補する事。

SW：今日のパンパシフィックコミッションにおいて、9.1メートルの高さの会場が、次回パンパシフィックカップの会場として承認された。天井の高さにこだわるあまり、会場費が高額になり過ぎて大会を開催できないという状況を、我々自身が作り出すべきではない。2008年のリマリック大会では8.8mだった。当時選手やコーチらが問題として感じなかったのは、事前に告知され会場の高さに合わせて準備してきたため。従ってヨーロッパンコミッションも低めの天井の会場を選択する事は可能。

SCO：天井の高さにこだわるあまり、自分の首を絞めている。

SWE：低めの天井であっても問題はない。

NOR：ドイツ大会の天井の高さは。

ENG：9m以下、事前情報では7.5m。

NOR：ノルウェー大会では11m、9mは低すぎる。

SWE：スウェーデンの規程は12m。しかしヨーロッパ選手権実施は必要なので、天井が低くても対応すべき。

ITA：12m以下でもOK。

SW：WBTFの選手権は13m、カップ大会は11mとなっている。パンパシフィック大会は9mを承認した。その他に会場が見つからないため。

SW：もし2月14日の段階で、13mを満たす会場が見つからなかった場合、どのように対処すべきか。ヨーロッパンコミッションで今回検討すべき。

2020年パンパシフィックカップ：カナダ・カルガリー

2020年ヨーロッパンカップ：スペイン（候補）

SW：入札の内容は不適切。適切な手順で入札すべき。

Euro各国：賛成

ENG：特にホテル料金などは重要。

SW：この入札は次回のサマー会議で正式な手順を経て行うべき。入札資料は6月までに提出する事。

2020年選手権大会：現在アイルランドから入札希望の意思が示されている。しかし入札資料は提出されていない。

SW：この件に関してもサマー会議で審議する。入札資料は6月までに提出すること。

2021年IBTF選手権大会

SW：この大会は是非WBTF加盟国で主催権を勝ち取ってほしい。

CAN：もしメジャレッツを含むなら、ヨーロッパ加盟国での開催が望ましいのでは。

NET : IBTFは既に天井の高さを定めているのか。

SW : まだ

SW : 限られた更衣室で、どのようにして多数の選手に対応するか。現在各国に更衣室を割り当てている。

RUS : 2018年5月の大会では、大会会場が大きい為問題ではない。タイムスケジュールをうまく組み、選手の流動を促す。

JAP : 我々の選手権には約1000名が出場し、3日間開催される。更衣室は男女別に設け、団体ごとには割り当てない。着替えは更衣室で行い、服やバッグは選手席に置く。

SW : 7~8日間にわたる大会運営となると、更衣室の管理も問題になる国もある。

SW : 入札を希望する国は6月までに資料を提出する事。

### 新規加盟国協会報告

RUS : ウズベキスタンは内向的な国だったが、民主化後大変外交的になった。Viktoriyaはウズベキスタンスポーツ省と良い関係を維持している。また英語も大変上手。キルギス共和国の会長と同様（但し英語はそれほどではない）。

SW : これらの国とは頻繁にやり取りを行っており、加盟に大変積極的。

土屋より韓国のクリニックに関する報告があった。

**動議5:** ウズベキスタン、キルギス共和国、アルゼンチン、パキスタン、南アフリカ、韓国の暫定加盟を承認する。

発議 : USA

セカンド : SCO

満場一致

SW : 我々の暫定会員制度は、1年ごとに更新する必要がある。今回カザフスタンの更新を認めるべきではない、との意見があった。当時この協会から申請があった際、同時にもう一つのカザフスタン協会もからも問い合わせがあった。3年間の観察を経て、今回2つ目の組織を暫定会員として承認したい。

**動議 6:** 現在暫定会員のカザフスタン協会の加盟を継続しない。

発議: CAN

セカンド: USA

満場一致

CZE : スロバキアにコンタクトし、加盟を促す。

USA : 日本は中国へのアクセスはあるのか。

JPN : 15年ほど前コンタクトがあったが、現在ではほとんどつながりはない。

SW : インドネシアは。

JAP : 昨年12月の全国大会に、インドネシア大使館の一等書記官が大会を訪問した。彼よりインドネシア国内のスポーツ省の職員を紹介してもらった。今夏インドネシアはアジアゲームを開催する。現在バトントワーリングをデモンストレーション競技としてもらえるよう現在交渉している。

SW : プエルトリコ関連。約\$ 3,000程の支援金が集まった。また本日、日本より\$ 4,000の支援があった。

USA : USTAとして人道支援隊を現地に派遣する。

## 予算申請

ポールより2018年度の予算案が提出された。

SW : 集計システム構築の目標は、レーンごとにTVモニターを設置しスコアを表示する事。ハード面(タブレット、ネット接続関連)はWBTFが、その他の備品(モニター等)は主催国が提供する。

ENG : フランスは既に2019年に向けて大型モニターの準備を行っているのか。

FRA : いいえ

ITA : システムは異なった国で使いまわされるので、出来るだけ簡単に設置できる物が良い。

NET : General Secretary (事務局員) とスポーツアドミニストレーターの違いは。

SW : 提案の通り、重複する業務は少ない。

USA : 選挙で選出されるのであれば、どのように人選するのか。

SW : 募集要項を出す。

ENG : GSは総会にも出席するのか。

SW : 出席する必要はないかもしれない。現在ほとんどの業務はSWが行っており、次期会長はこれらの日常業務を私が行う様には、行えないかもしれない。

JPN : IFであるWBTFが以前から事務局を有さなかった事に驚いている。我々NFでさえ5名の正職員で日々の業務をこなしている。

NET : アドバイザー・ロビー担当者への謝礼は1回のみ、又は毎年必要か。

SW : まず1年間の業務内容を見て、再度検討する。

SW : 支出項目には経費のかかる物もあるが、長年に渡りWBTFはその為に備蓄してきた。今その資金が必要な時。

NET : 教育関連の\$ 2,500は十分か。

SW : もちろんもう少し予算を確保できた方が良い。しかし予想するのは困難。しかし既に他の支出項目での増額がある。

サンディより今年度の加盟料の提案があった。昨年度と変更無し。

## IBTF定款の改訂について

以前承認された定款には、定款と規約が混在していた。

## IBTFポリシーハンドブック

午後7時、休会。

日曜日 午前3時30分

SW : 開会宣言

JMRとElisabeth KleiveによるETCの報告。

クロアチア・ポレッチでのETC議事録が、出席者にJMRを追加の上、承認された。

アーティスティックグループ種目は、出場団体数に関わらず、上位10団体が決勝進出との提案があった。チーム種目は変更無し。

SW：この件に関しては、2017年大会後、多くの団体から要望があった。多額の費用を費やし出場した上で、決勝進出数が少ないのは問題。Aグループはレベル分けが無い為、妥当な案。

刺青を覆い隠すという規程を削除する提案があった。時代は変わっている。他のスポーツ種目も調べたが、体操競技でさえ刺青を隠す事はしていない。

ENG：化粧で覆おうとしたが、上手いかなかった。化粧がバトンに移ってしまう。

コミュニケーションの更なる向上についての提案

- 審査員及びTAはサマー会議で数時間打ち合わせを行う。
- 年間を通してスカイプ又はネットカンファレンスで会議を行う
- 電子メールグループを作成し、コミュニケーションを図る。
- ワーキンググループをETCメンバー以外から選出し、作業を行う。

SW：既に2月6日にネット会議を予定している。

NET：ETCから提出される動議は一旦TAで承認を受けた上で、最終的にボード会議で採決すべきでは。

SW：2年前TAからボードに対し、何らかの小組織を設立し、行わなければならない作業をスピード化できるよう要請があった。その為ETCが設立された。

ENG：ETCはコミュニケーションの問題を指摘している。

EK：今回のウィンター会議においてETCは特にコーチプログラムとショートプログラムの改訂に関して集中的に審議している。これらの内容は2月6日のネット会議において各国テクニカルアドバイザーと十分審議しなければならない。

また現在チーフジャッジの役割についても審議している。世界選手権大会では、審査員のスコア表示に関する業務など、事務的な役割が中心となる。しかしヨーロッパ選手権大会ではチーフジャッジが大会審査員に対しスコアの修正を指示する権限がある。

SW：サマー会議においてTAやJCの会議を予定するのは困難。WBTFは以前サマー会議においてテクニカル及びジャッジ会議を開催していたが、それらは廃止となった。TAメンバーは大会参加に忙しく、会議出席の余裕が無いため。

ENG：サマー会議で審議される内容は、2月6日等に開催されるネット会議で行うべき。

SW：今回ETCより提案された内容はこの会議で採決すべきか、又は2月6日開催のTA会議後にネットで採決すべきか。

Board：今回採決すべき。

JAP：刺青は文化の違いの問題。我々のスポーツに刺青は適さない。

NET：新審査システムに関する報告は無いのか。

EK and JMR：今まで様々な方法を検討してきたが、成功していない。今後も検討が必要だが、今はまずコーチシステムの構築が重要。2014年にキャプション審査を試みたので、今後さらに検討していく。今後は明確な方向性を示し、各国TAをワーキンググループに取り込んで業



務を行っている。

JMRよりコーチプログラムの説明があった。

今夏の講習会での講師を決定した。1日講習会の内容を定め、今夏実施する。対象者は収穫取得を希望する参加者と、受講のみの参加者。

将来WBTFの公認を受けた指導者が各国や各地区で必要となる。特に新規加盟国への指導及び加盟国内での指導者養成が重要となる。

**動議 7:** アーティスティックグループ種目は2ラウンド制とする。予選から開始し決勝戦とする。出場団体数に関係なく、予選上位10団体が決勝に進出する。

発議: USA

セカンド: France

賛成: 12

反対: Netherlands

可決

**動議 8:** 刺青を覆うという規程を削除する。 (Section 10 of the WBTF Policies & Procedures Manual – Page 11, 項目10)

発議: Norway

セカンド: Russia

賛成: 9

反対: Japan, Canada, Netherlands

棄権: Switzerland

可決

### **IBTF定款の改定**

SW: 改定案は事前に配布済み。この改定内容はスポーツ弁護士からも了承済み。

CAN: Section 3.1.3.2 (Purpose) この条項はメジャレッツ組織を除外する事にならないか。メジャレッツ組織はWBTF及びWFNBTAに属する事が出来る事を明確にする必要がある。文言の修正は必要ないが、共通理解は必要。

**動議 9:** IBTF定款修正の承認。

発議: CAN

セカンド: SCO

賛成: 満場一致

可決

### **IBTFポリシーハンドブック**

SW: 前回の定款より多くの部分が削除され、このポリシーハンドブックに移行された。現在も作成中。

USA: IBTFは主催国に対しエントリー料のシェアが低い。IBTFは50%、WBTFは60%。

SW: これはまだ正式なポリシーハンドブックではない。財務関連に関してはまた別の担当が現在も検討中。

審議は難航した。2つの異なった組織はそれぞれの運営方法と財務管理があり、このすり合わせ

せには時間を要した。特にフリースタイルの年は問題であり、今後もIBTFで再検討する必要がある。

SW：修正案は今後、WBTFボードで承認される。

**動議 10:** IBTFポリシーマニュアルの承認。

発議： USA

セカンド： SWI

賛成： 満場一致

可決

### 大会主催入札手順

NET：資料によると最低3,000人の観客収容可能な施設が必要。必要以上の数だと思うが。

ENG：ヨーロッパコミッションは、2月14日までに入札する主催国が無かった場合、どの様にするかについて審議する時間が無かった。

ENG：現段階において、2019年ヨーロッパ選手権に参加する国が確定できない。

NET：大会運営の為の財政確保を審議する必要がある。根本的な問題であり、これが解決しないと入札しようも無い。

SW：特に各国が恐れるのは施設の条件。特に天井の高さの確保。この為に大会主催への足を踏む事となる。

NET：ボード会議終了後、ヨーロッパコミッションは集まり、2019年大会について審議しなければならない。

**動議11:** 大会主催入札手順をWBTFポリシーマニュアルに追加する。

発議： NET

セカンド： NOR

賛成： 満場一致

可決

### カタロニアからの手紙

昨日カタロニアから「国際旗」の下で大会に参加したい、との申し出があった。この件に関しスペインは反対している。

**動議12:** カタロニア協会からの申し出を拒否する。

発議: CAN

セカンド: USA

棄権: RUS

賛成: 11

可決

### アイルランドからの手紙

ENG：アイルランドは、ステイ・トゥ・プレイ規程を利用して不当に利益を得ようとしている訳ではない、との手紙が届いた。この規定によって得た収益は全て会場費に充てる。

NOR：バーナデットからの手紙では、デポジットは6月までとなっている。

NET：エントリー締め切りは5月9日（開会式の8週間前）。ホテルのデポジットは5月15日あ

たりでも良い。

**ACTION** : ヨーロピアンコミッションで審議する。

#### スポーツ承認サブコミッティ

会長 : Sandi Wiemers, SWI (Alessia Dolci), RUS (Andrey Kokoulin), NET (Martin Stevens)が担当する。

目的はGAISF加盟に関するWFNBTAとの同意書の作成。

**動議13:** スポーツ承認サブコミッティがボードを代表してGAISF加盟への業務を行う。

発議 : CAN

セカンド : USA

賛成 : 満場一致

可決

#### テクノロジー報告

JJより WBTF.ORG の年間統計の報告があった。

PRよりフォトサイトの報告があった。ワールドレコードブックも掲載されている。

SWより4月10日にアスリートコミッションによって実施されるワールドバトントワーリングデ  
ィの説明があった。2017年よりさらに多くの参加者を望んでいる。

ENG: WBTFのフェイスブックに毎日その日の写真を掲載してくれて、感謝している。

#### 2018年 Budget

ポールより2018年度の予算案が提出された。

FRA : アルフレッド・ラ・モンのコンサルティング料の120万ドルに関し、もし加盟が認められ  
たらWFNBTAと折半できるか。

SW : 大変重要なポイントであり、賛成する。まずは目標達成を目指す事。WFNBTAとの協力  
体制においては、いつもWBTFから提供する物の方が多い。教育システム、資金、定款、組織  
運営の形態等。

FRA : 我々は完全な組織ではない。しかしある程度の資金を備蓄してきたので、銀行で眠らせ  
るより必要とされる今、正しく使う必要がある。

USA : 我々は1/3の貯蓄を今回支出に回そうとしている。これは相当な金額。

**動議 14:** 2018年度の予算承認。

発議: SCOT

セカンド: NET

賛成: 11

反対: USA

承認

#### 2018年世界選手権情報

ランチ予約は近日中にウェブに掲載する。

練習会場予約は既に掲載されている。

シャトルバスに関しては後日連絡する。

エンバシーでの夕食に関しては後日連絡する。

## **2019年IC エリート部門について**

昨日の審議より、3つの選択肢がある。

- 1) 現状維持
- 2) ソロ、2バトン、チームのエリート部門をICに戻す
- 3) NBTAと交渉し、エリートの参加者数を各国12名（各連盟より6名）とする

CAN：現状維持が望ましい

SWE：メジャレッツ種目が大会中日に開催されるが、これを前か後に移動できるか。

ITA：メジャレッツ種目は大会の前か後に行う方が良い。メジャレッツはスポーツでは無いのにスポーツ種目と混ぜるのは良くない。

FRA：ICのエリート部門のみを審議しているのか、それともスケジュール全体か。

USA：双方が関連している。

Jeff：スケジュール変更に関して－WFNBTAの合意が必要

- GPの出場者数変更－WFNBTAの合意が必要。
- ICでエリート部門のソロ、2バトン、チーム種目を再度実施する－WBTFの承認のみ。

USA：テクニカルの意見は。

SW：当時WBTFからは3人のテクニカルが出席しており、IBTF会議において賛成した。

NOR：スケジュールに関して、もう一度説明してほしい。

SW：もちろん。

FRA：大会日程を前及び後ろに1日延長するのは不可能。

SW：必要ならIBTF役員に再度状況を説明し、スケジュール変更の交渉を行うのは可能。メジャレッツ種目を7日目にし、グランプリを5日目から開始する。

SW：レーン数を増やす事も可能かもしれない。

FRA：このスケジュールは既にFFSTBで承認されている。FFSTBにとってこの大会の主権は財政面でのリスクが高い。もしエリートのソロ、2バトン、チームをICに戻したら、多くの人たちはグランプリ大会まで滞在して同じ競技を観る事は無いだろう。大会最後の2日間は我々にとっては重要。この時に多くの観客動員が望める。

SW：もしエリートのソロ、2バトン、チームをICに戻さなかったら、ATには選ばれても（6名までの参加）、ソロには出場できないケースも出て来る（GPは3人の為）。

SW：ポレッチのGP大会での問題は2つ：

- 1) アボッツフォードの時と同じく、ICの後に行くべきだった。
- 2) 開催地の悪さ。数ヶ月前にNBTAはポレッチで大会を開催したため。

CAN：今回の件は十分時間をかけて審議した。IBTFが決定した現状を維持すべき。

Option 1: 現状維持

Option 2: エリートソロと2バトンのみをICに戻す

Option 3: エリートチームのみをICに戻す

Option 4: エリートソロ、2バトン、チームの全てをICに戻す

1回目の投票

Option 1: 5

Option 2: 3

Option 3: 0

Option 4: 4

FRA : なぜ再度採決するのか。もしスケジュールが変更するならば、至急フランスの役員会に諮る必要がある。どの様にして物事が決定されるか、明確では無くなった。主催国は金もうけの為に開催するのではなく、スポーツ普及の為にやっている。主催には多大な労力が必要となりボランティアも必要となる。一旦物事が決定されたのなら、それを守るべき。毎回会議がある度に決定内容が変更されると、運営は成り立たない。フライト出発までには時間が無いので、決定するならば今すぐに決定してほしい。国内においては数人で物事を決定する訳ではない。組織統合がなされた今、投票者の30%は既にNBTA側の役員である。

NET : 日本とアメリカはOption2に同意できるか。

USA : Option1よりはまし。

JPN : チーム種目のみをGPで行うとは、国内での説得力に欠ける。

JPN : もちろん会議の決定には従うが、ソロ種目は我々の根幹となる種目。

再度採決

Option 1: 1

Option 2: 0

Option 3: 0

Option 4: 11

SW : これでICとGPの両大会に多くの選手が出場できる。

SW : 手順について。夏の大会から帰国後にすぐ、次回の大会のルールはいつ発表されるのかとの問い合わせが相次いだ。ルールは確定したが、11月になってIBTFとして大会の内容を決定した。この段階において長年WBTFがICで提供してきたエリートソロ、2バトン、チームをICから除外したのは誤りだった。11月に決定したIBTFの決議を再度審議するのは、プロフェッショナルでは無いのはわかる。しかし問題があるにもかかわらず、それを無視するのもやはりプロフェッショナルではない。

#### 重要事項の追記

この段階において一旦エリートレベルソロ種目、2バトン種目及びチーム種目は2019年インターナショナルカップにおいて実施される事となったが、3月28日のWBTF公式通達によって、これら3種目は2019年インターナショナルカップ種目から外され、2019年IBTFグランプリ大会においてのみ実施する事となった。



## 2018年3月28日付 WBTF公式発表

2019年インターナショナルカップ及びグランプリ大会は、フランス・ブルドーにて2019年8月4日～11日まで開催されます。

FFSTBの総会が3月中旬に開催されました。この総会にてWBTFインターナショナルカップ、メジャレッツ種目競技、及びIBTFグランプリ大会の開催について、WBTF総会にて決定された大会スケジュールに関して審議されました。

昨年11月にIBTF取締役会議で決定した大会実施案に対し1月キシミーのWBTF総会において改定案が承認されましたが、FFSTB総会においてWBTFが提案した実施案が、全会一致で否決されてしまいました。WBTFの改定案では、週末の観戦チケットの売れ行きが見込めないとの結論でした。しかし、大会主催をキャンセルする前にFFSTBより代替案が提出されました。

3月24日、FFSTBよりWBTFエグゼクティブにこの再提案が提出されました。この再提案はWENBTAにも共有され、当時リレハンメルで開催されていた総会でも審議されました。

WENBTAとWBTFの両取締役が審議した上で、FFSTBが大会主催をキャンセルする事なく2019年に実施する為の代替案として以下の再提案を承認する事となりました。

WBTF エリートレベルのソロ、2 バトン及びチーム種目はインターナショナルカップより除外し、IBTF グランプリ大会のみにおいて実施する事となりました。

加盟各組織はソロ及び2 バトン種目において6名の選手、またチーム種目においては3チームまで出場する事が出来ます。

大会スケジュールを添付します。大会を実施するにはやむを得ない決断でした。加盟各国のご理解をぜひお願い致します。

**動議 14:** 閉会動議

発議: USA  
セカンド: SCO  
賛成: Unanimous  
可決

Respectfully submitted: Jeff Johnson, Secretary